

福岡女大家政	平松 園江
	上村 元子
福岡女学院短大	○花田瑠美子
中村学園短大	才田真喜代

1. 従来、乳児服はゆるやかすぎる物を着用させてきたが、乳児の健全な発育を考えると成長に応じた運動を妨げない衣服が望ましい。しかし、その目的にあった衣服を作るための基準となるような身体計測値は殆んど見当たらない。そこで私共は乳児の身体の各部の発育状態を観察する必要があると思い、今回は7年前行なったおむつカバー作製に必要な身体計測11項目に、さらに5か所を加えた各部の計測をし、乳児用衣服寸法の基準設定のための試料を得たので結果の一部を報告する。

2. 研究対象は1965年5月、九大小児科で行なわれた西日本赤ん坊大会における生後2か月より13か月までの健康な乳児704名である。計測項目は身長、頭長など長さに関係ある6項目、胸囲、頭囲などの周径に関係ある9項目、および体重、計16項目である。

対象乳児は各計測項目で厚生省標準値を上回り、一般より優位な体格を持ったグループである。7年前と共通する項目では、各平均値共に大差ない。各部の成長は首回りを除いて生後3、4か月までが著しい。生後11か月では殆んどどの部位の成長度が他の月とくらべ小さいか、減じているなど乳児期の成長特徴が観察された。身長、体重に対する諸項目、胸囲と周径項目の相関関係および身体比例などについて検討、考察を行ない、乳児の衣服購入、型紙製作の際の目安を得るための基準寸法を得た。